

(別紙5)

補助事業番号 28-1-120  
補助事業名 平成28年度 公益事業振興補助事業  
補助事業者名 山陽小野田市立高千帆小学校

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

本校の裏山は、かつては児童の遊び場として整備されていたアスレチックであった。しかし、多くの木々や雑草が生い茂る危険な場所として立ち入り禁止になっていた。自然体験の不足が懸念されている現在、児童の生活環境で日常的に自然と触れる機会はありません。また、本校は児童数の割に運動場が狭いという悩みを抱えている。そこで、本事業「裏山復活プロジェクト」により、地域等の協力を得ながら環境を整備することで、学習や遊び、憩いの場として活用できるビオトープのある公園として再生させることを目的とする。

(2) 実施内容

① 草木の伐採作業

整備区域内の雑草や雑木などを伐採して、人が入ることができるように整備した。



草木撤去作業



トラックで搬出



伐採後の様子

② 切り株等の撤去作業・ビオトープ用掘削作業

目的の整備範囲の伐採は終わったが、人が出入りする区間に大小の切り株があり危険なため重機を使った撤去作業を行った。また、ビオトープ用のため池を掘った。



切り株撤去作業



重機による作業



ため池

(別紙5)

③ ビオトープ作り

宇部西高等学校の総合学科の生徒20名と本校児童が協力してビオトープを作った。竹やぶから切り出した竹を運搬して、4つに分割、それを一定間隔に打った杭にそってジグザグに組んでいった。これは、「しがらみ」といって、昔の川土手を整備する方法に使われていたとのこと。高校生には数回来校してもらい、児童との交流活動を行った。



④ ハーブ園作り

園芸を専門に学習している高校生に、苗の持ち方や植え付けの仕方などを教えてもらいながら、本校児童が24種類、約200株のハーブを丁寧にタイヤの中の土に植えていった。また、斜面にはオリーブを6本植えた。



⑤ 土砂の運搬

かつて遊具として使われていた「あり地獄」は、安全性を高めるために土砂で埋めることにした。昼休みや掃除時間を利用して、職員と児童で少しずつ一輪車やリヤカーなどを使って土を運び、4か月以上かけてようやく作業を終えた。



⑥ ネーミング決定・看板設置

裏山の名前は児童により「しあわせの森」と名付けられ、本校出身である地域の書家にその看板を筆で書いていただいた。そして、地域の工務店に依頼し、風雨から看板を守る屋根付きの看板を設置した。また、現在は使われなくなっていた葦簀(よしず)を再利用したフェンスも併せて設置した。



⑦ 岩石園の設置

校舎裏に長年放置されていた岩石の標本を「しあわせの森」に移設することにした。ただ、岩石の名前が不明であったため、宇部工業高等学校の地学専門の先生に調べてもらった。ビオトープ周辺に配置したので、今後はそこを岩石園として整備し直し、高学年理科の学習に活用する予定である。



2 予想される事業実施効果

- ・理科や生活科などの学習（授業）で生き物の観察や実験に活用することができる。
- ・学校行事や学年行事などで集会や活動場所として活用できる。
- ・地域の方々との交流会の場所として活用できる。
- ・ミニコンサートや発表会の場所として活用できる。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

該当なし

(別紙5)

(2)(1) 以外で当事業において作成したもの  
該当なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : さんようおのだしりつたかちほしやうがっこう 山陽小野田市立高千帆小学校

住 所 : 〒756-0080

山口県山陽小野田市くし山1丁目25-1

代 表 者 : 校長 みはら ひろと 三原 裕人

担 当 者 名 : 教頭 古屋伸浩

電 話 番 号 : 0836-83-2642

F A X : 0836-83-2264

U R L : <http://www.edu.cty-so.jp/takachiho-es/>